

令和5年3月14日

那須烏山市議会議長 渋井由放 様

文教福祉常任委員会委員長 福田長弘

予算審査結果報告書

本委員会に令和5年3月7日に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により報告します。

1 審査期日 令和5年3月8日（水）及び9日（木）

2 審査場所 那須烏山市役所 南那須庁舎 第二委員会室

3 出席委員 福田長弘、高木洋一、相馬正典、田島信二、中山五男

4 説明のための出席者

市民課長 大谷啓夫、参事兼福祉事務所長兼健康福祉課長 皆川康代、こども課長 川俣謙一、学校教育課長 大鐘智夫、生涯学習課長 水上和明、他関係職員

5 審査事項

本委員会の所管する市民課、健康福祉課、こども課、学校教育課及び生涯学習課の令和5年度那須烏山市の一般会計及び特別会計の歳入歳出予算

6 審査結果

本委員会が付託を受けた一般会計、特別会計の予算については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。ただし、次のことについて要望し、意見を付することとします。

市民課

- ・熊田診療所及び七合診療所は、公的医療機関として地域医療の確保のため重要な役割を果たしているが、市の人口減少やニーズの変化により、診療件数が減少し、一般会計からの繰入金や基金の取り崩しに依存した経営が続いている。間もなく基金が枯渇することが予想される財政状況を踏まえ、地域住民にとって安心な療養環境を継続的に提供できるよう、経営の健全化に努められたい。
- ・市民相談事業（弁護士相談）は年6回を年7回へ相談開催日数を増やしたところであるが、市民が抱える法律上の様々な悩みの解決の糸口となるよう、さらに相談開催日

数の増加を検討されたい。

- ・国民健康保険加入者の出産育児一時金が増額された。市民が安心して妊娠・出産できるよう、引き続き制度拡充に取り組まれない。

健康福祉課

- ・がん患者補装具購入費の助成により、がん患者の治療と就労、社会参加等の両立支援が図られ、精神的負担の軽減につながると思われる。がん患者に限らず、一人ひとりに寄りそった適切な支援に努められたい。
- ・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種については、予約方法等において当初は混乱したものの、対象者の6割が接種を完了した。引き続き国の動向を注視し、必要な情報は市民へ発信すること。

こども課

- ・認定こども園整備については、委員会として何度も協議し、先進地視察の実施や執行部との議論を重ねてきた。整備にあたっては、示されたスケジュールに沿って的確な進捗管理を行い、令和7年4月の開園に向け、市民に理解が得られるよう、粛々と着実に進めること。
- ・こども医療費助成制度の対象年齢が18歳までに拡充された。子育て世代にとっては負担軽減になるが、安易な診療・重複診療等がないよう、適正な医療機関受診に関する啓発を併せて実施されたい。
- ・こども館については老朽化が著しい。にこにこ保育園の跡地利活用方策も十分勘案し、並行して検討されたい。

学校教育課

- ・スクールバスの運行には、児童生徒一人当たり年間約15万円の経費がかかっている。スクールバスの効率的な運行方法を調査研究されたい。
- ・中学生海外派遣事業及び広島平和記念式典派遣事業は、厳しい財政状況の中にもありながらも、子どもたちが貴重な体験を得るために、予算を捻出し実施している。学習の成果を関係者だけではなく、市民や児童生徒に向けて発表する事後報告会の開催実施を検討されたい。
- ・児童生徒数が減少する中、子どもたちにとってより良い学習環境・教育環境を構築するべく、学校適正規模等検討委員会においてよく議論し、学校施設の適正規模・適正配置に向けた具体的な方策が示されることを期待する。

生涯学習課

- ・烏山城跡が国の史跡に指定されることとなった。地域のシンボリック的存在として市民が愛着を持てるよう、効果的な情報発信に鋭意取り組むとともに、観光誘客及び交流人口の拡大につなげられるよう期待する。
- ・烏山体育館をはじめ、市の体育施設全般の老朽化が目立つ。公共施設等総合管理計画に沿って、計画的な修繕・統廃合を積極的に実施されたい。
- ・電子図書館がスタートし、利用登録者数が着実に伸びている。幅広い世代にさらに利用してもらうため、電子図書館の利便性も併せて市民に周知されたい。